

令和6年度第4回陸前高田市津波避難計画策定アドバイザー会議 議事要旨

- 開催日時 令和6年10月2日（水）午後2時00分から午後5時30分まで
- 開催場所 陸前高田市消防防災センター2階 防災研修室
- 出席委員 牛山素行委員長、加藤孝明委員、関谷直也委員
中村吉雄委員、福留邦洋委員
- 経過概要
 - 1 事務局より、令和6年6月に国立大学法人東京大学生産技術研究所との間で締結した「津波避難シミュレーション実施業務」の委託契約について報告を行った。
 - 2 次第2「津波避難シミュレーション作業の現状報告」について、加藤委員から報告が行われた。
 - 3 協議ア「津波避難シミュレーション分析の方針」及び協議イ「津波避難シミュレーションの概要及び高田地区の津波避難シミュレーションの進め方」について、加藤委員から説明が行われ、委員による意見交換が行われた。主な意見は、次のとおりである。
 - ・ シミュレーションの対象地域は、高田地区と漁村集落地区の2ヶ所を想定する。
 - ・ 高田地区に関しては、これまで議論にあったとおり、浸水想定区域内の滞在者が集中する、復興祈念公園、高田松原海水浴場、高田松原運動公園とし、季節や時間によって相当ばらつきはあるが、ここにいる人たちの津波避難の確実性をいかに確保するかが大きな課題である。
漁村集落地区は、高齢化による避難の困難化、避難行動要支援者、避難場所等の課題があり、避難の確実性を高めるための避難計画が必要である。
 - ・ シミュレーションの目的として、自動車利用を考慮した避難計画を策定するにあたり、そのための論点となるような資料を提供する。主な留意点として、地域特性の反映、安全性の検証、他集落への横展開の3つを考慮する。
 - ・ 高田地区はシミュレーションにより避難状況を描き出し、適した計画を作っていく。漁村集落地区は、住民の実態をきちんと反映するため、例えば住民アンケートで、避難先、避難手段などの実態を押さえるという作業と、対策についても住民の声をきちんと反映させ、必要があれば避難シミュレーションを動かして計画を作っていく。
 - ・ 能登半島地震では液状化によるマンホールの浮上が印象的だったが、それとともに橋の前後の段差は、ほぼ確実に発生するので、橋が落ちなくても、橋のところで車は通れなくなるという条件は検討した方がよい。
 - ・ 復興祈念公園の駐車場から車を避難させることを優先した場合に、アバッセ前の駐車場から出る車の交通量を抑えなければならない。
 - ・ 三陸沿岸道路について、震度6強以上の地震が発生した場合に、安全点検のため、走っている車を一旦出口に誘導することになっているとのことで、例えば陸前高田ICや陸前高田長部ICの場合は、降りた先が浸水区域ではないため、基本的に一般道に車両を出すことになることから、この車の行き場を考えなければならない。
 - ・ 三陸沿岸道路を走行中の車両を、陸前高田長部ICから一般道に降ろすことが、ネックになっていることをシミュレーションで示した上で、道路管理者と協議が必要である。
 - ・ 気仙大橋が通行出来なくなった場合、姉齒橋を使用して迂回することを想定しているが、姉

歯橋も同様に通行できなくなることが想定されるので、橋が通行できないというシミュレーションをやるのであれば、橋は全部通れない条件で考えた方が良い。

- 4 協議ウ「漁村集落地区の検討の進め方」について、委員による意見交換が行われた。主な意見は、次のとおりである。
 - ・ 漁村集落地区について一番理想的なのは、住民へのアンケート結果をシミュレーションに反映させて動かしてみて、課題を抽出した上で、現実的な対策を検討し、またシミュレーションに入れていくという流れである。
 - ・ 避難手段、避難経路、避難行動要支援者の有無、時間帯毎の属性や人数などが分かれば実態を反映できる。
 - ・ 情報量を確保するためには、調査票で実施した方が良い。また、世帯単位、個人単位で実施したほうがよいし、抽出するパラメーターがある程度決まっていれば実施できる。
 - ・ キーパーソンが集まる会を現地で行い、おおよその実態をシミュレーションの時に反映させたいので、この地区の人は絶対ここを通過して逃げそうだという話や、車でしか逃げられない人、というのをプロットしてもらう方法もある。
 - ・ 今回のこのプロジェクトの趣旨を対象地区の方に集まってもらって説明をしてから、展開したほうが良い。
- 5 協議エ「その他」について、事務局から津波ハザードマップの作成に係る進捗報告と、作成イメージ案の共有を行った。
- 6 事務局から、今後のスケジュールについて説明を行った。また、第5回会議日程について、改めて日程調整を行うこととした。。